

論文要旨

学位論文題目 「有職母親のキャリア教育経験が仕事満足感へ与える影響
-学際的視点からの検討-

氏名 佐野 潤子

共働き世帯数が片働き世帯数を超え、女性が働き続けることは特別なことではなくなったが、依然として第一子出産前後に 6 割の女性が仕事を辞めている。女性が就業継続を断念している理由は「家事・育児のために仕事を続けられそうにない」が高く、妻の家事・育児の負担が多い。こうした状況の中、一方で、就労継続している女性は、第一子妊娠時、1 歳時に仕事の「やりがい」を感じている割合が高いという先行研究もある。女性の就労を支える仕事満足感につながる要因は何であろうか。特に、学校教育で学ぶ生活やキャリアに関する教育が有業の母親の仕事満足感に影響を与えているのだろうか。

これまでの女性の就労に関する先行研究は、正社員としての就労継続、昇格・昇進の男女差、賃金プロファイル、仕事と生活のバランスなどが課題の対象であった。本研究は女性の就労と、学校教育の関わりを、仕事満足感などの生活の主観の質にも焦点をあて、有職の母親の意識も考慮して、学際的な視点からの考察を試みた研究である。

本研究では、具体的に次の三点について明らかにする。一点目は学校教育が有職の母親の仕事満足感に影響を与えているのかどうかである。学校教育で行われる、いわゆるキャリア教育の効果は、就職活動という短期的な視点では考察されているが、学校教育、家庭科教科なども含む生活やキャリアに関する学びが、子どもを持ちながら働いている女性の仕事満足感にどのような影響を与えたのかは、いまだ研究途上にある。多くの有職の女性は正社員の働き方を必ずしも選んでいないのが現状である。

二点目は、日本の働く母親の現在の仕事満足感に影響を与える要因は教育以外に何かを明らかにすることである。年齢や学歴など本人の人的資本要因なのか、夫や子どもに関する家族要因か、本人の持つ性別役割分業観か、機会均等や年収など職場要因なのか。

三点目は生活やキャリアに関する学びが人生のどの部分に影響を与えているのか、その重要性と今後の課題を考える。

本研究で使用するデータは文部科学省技術試験研究委託事業「近未来の課題解決を目指した実証的社会科学推進事業」お茶の水女子大学プロジェクト『ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和』（2008-2012）において収集したインタビュー調査と質問紙調査データである。

本研究の学術的意義は 4 点である。第一に、女性の場合、人的資本理論を援用すれば、キャリア教育経験が仕事満足感を高めていた。さらに、教育年数が長くなると、性別役割分業観の平等志向が高まっていた。伝統的な性別役割分業観に囚われていないほど、複数役割満足感が高まり、その結果、仕事満足感も高まっていた。教育によって人的資本を高めることが、より平等意識を高め、その後の生活にまで影響を与えることを立証した点で

ある。性別役割分業観にとらわれない教育を受けることが、その後の仕事や、役割観に影響することがわかり、必要であることが分かった。

第二に有職の母親の仕事満足感に影響を与えるその他の要因は、複数役割満足感、機会均等職場であること、現在も仕事に関する学びを続けていることであった。教育年数の長さや、キャリア教育経験によって学校卒業時の就労継続希望は高くなることはなかったが、キャリア教育経験が直接、仕事満足感を高めていることが偶発性学習理論を援用し、実証を示したことになる。また、キャリア教育経験など学校卒業後の生活や意識に影響を与えていることから、教育の重要性を再確認することができた。

第三に、夫の学歴や収入によって妻の働き方が決まることはなかった。むしろ、夫の年齢が高いほど、妻の仕事満足感が高くなったり、夫の学歴が高いほど、妻は正社員であるということから、資源理論と、ダグラス・有沢の法則が成立にくいという先行研究を支持する結果を得た。むしろ同類婚の広がりや、男女ともに共働きを当然と考えることが妻の就労継続に重要であることがわかった。

最後に、日本では末子の年齢が、現在の仕事満足感や年収に影響を与えていなかった。また、インタビュー調査の語りから、日本の場合は末子の年齢が高くなるほど、お迎えや塾選びなどむしろ母親としての役割を自ら担い、母親が仕事を調整している状況であった。

以上から人的資本理論を援用した結果、有職の母親は、教育年数が長く、人的資本が高いほど、性別役割分業観に囚われず、現在の仕事満足感が高くなっており、改めて教育の重要性が示されたと考える。さらに教育の内容は、知識・技能を身に付けるだけでなく、生活やキャリアに関する教育によって伝統的な性別役割分業観に囚われず、複数役割満足感や、仕事満足感を持てるようにすることが重要と考える。

本研究は、サンプル数などの課題は残るものの、キャリア教育と有業の母親の仕事満足感の関連の実証研究を行ったことで、今後のキャリア教育、家庭科教育に一定の貢献を果たした、意義のある研究である。